



令和3年5月11日

人々がコロナワクチン接種を躊躇する社会経済的要因を 明らかにしました

～ COVID-19 ワクチン接種の効率化に科学的なエビデンスを提示 ～

【本研究成果のポイント】 論文掲載

- 2021年2月に実施した全国調査（※）結果を分析し、人々がコロナワクチン接種を躊躇する社会経済的要因を明らかにしました。
- コロナワクチンの接種が無償で受けれるようになった際に、ワクチン接種をするかを聞いたところ、47%の回答者が積極的に接種を受けたいと回答した一方、22%の回答者が接種に消極的で、31%の回答者が態度を決めかねていることがわかりました。この結果は、53%の回答者がワクチン接種に躊躇していることを意味します。
- ワクチン接種にネガティブな影響を与える社会経済的属性としては、性別（女性）、年齢、主観的な健康不安、子供がない、家計収入および家計資産が低い、金融リテラシーが低い、将来不安が大きい等がわかりました。コロナワクチンの早期普及による集団免疫獲得に向け、効果的なワクチン接種への応用が期待されます。

（※）株式会社日経リサーチの協力を得て調査を実施。

【調査方法】 インターネットによる調査（全国の20歳以上の男女を対象）

【調査時期】 2021年2月19日～26日

【有効回答者数】 6,103（有効回答割合 35%）

【概要】

広島大学大学院人間社会科学研究科経済学プログラム 角谷快彦教授らの研究グループは、株式会社日経リサーチの協力を得て、2021年2月に全国でコロナワクチン接種への人々の反応を聞いたデータを分析しました。人々のワクチン接種への態度にはさまざまな社会経済的要因が影響を及ぼしていることを明らかにしました。

<発表論文>

論文タイトル

Willing or Hesitant? A Socioeconomic Study on the Potential Acceptance of COVID-19 Vaccine in Japan

著者

角谷 快彦 1、ワタナポンヴァニッチ ソンティップ 1、ユクタダッタ パッタポン 1、プッティナン ポングパット、ラーティ T ステラ 2、カン ムスタファ 1

1. 広島大学大学院人間社会科学研究科経済学プログラム

2. インディアナ大学公衆衛生学部

掲載雑誌

International Journal of Environmental Research and Public Health

DOI 番号

<https://doi.org/10.3390/ijerph18094864>

【背景】

COVID-19 のパンデミックにより、人々の健康不安が高まるのみならず、社会生活も大きな影響を受けています。この問題を解決する有効な手段の一つが、コロナワクチンの早期普及による集団免疫の獲得ですが、必要なワクチンを確保した後も、人々が積極的にワクチンを摂取する行動を取るかどうかは未知数です。

【研究成果の内容】

今回、角谷教授らの研究グループは、株式会社日経リサーチの協力を得て、2021年2月に独自に全国調査を実施し、そのデータを分析。人々のワクチン接種の態度とそれに影響を与える社会経済的要因の分析を試みました。

その結果、早期の集団免疫獲得の観点からみて、ワクチン接種に対する人々の態度は改善の余地が大きいことが明らかになりました。

効率的なワクチン接種には、ターゲットとする層に適した設計をすることが重要です。本研究結果は、回答者の社会経済的属性がワクチン接種に対する態度に大きな影響を与えていることを示しています。パンデミックによる混乱から社会を立て直す、集団免疫の早期獲得のための政策に科学的な示唆を提供することができました。

【お問い合わせ先】

大学院人間社会科学研究科 教授 角谷 快彦 E-mail : ykadoya@hiroshima-u.ac.jp

発信枚数：A4版 2枚（本票含む）